



寺院名物シリーズ④ 鳥取伯耆組・妙寂寺

妙寂寺本堂横の二本のイチョウは昭和 61 年に倉吉市の保存樹に指定されました。当時樹齢は 100 年と推定され、毎年秋にはたくさんの葉を美しく紅葉させ、多くの銀杏を実らせませす。落ち葉は美しい絨毯を作り、鳥の命を守る住処ともなっています。

山陰

編集 御同朋の社会をめざす運動
山陰教区委員会

発行 山陰教区 教務所
〒660-0002 松江市大正町四四三ノ一
本願寺山陰教室

TEL 〇八五二 21 四七四七
FAX 〇八五二 27 八三五一
利信

第四期「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) 最終年度にあたって

御同朋の社会をめざす運動
中央委員会 委員 波北頭

本年は「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)の第四期重点プロジェクト推進期間の四年目となり、いよいよ最終年度です。宗派ではこの第四期において「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace」子どもたちを育むために」をテーマにさまざまな取り組みが行われてきましたので、総括としてその活動をお伝えします。

ホールで学習支援と無料のお弁当の配布を行いました。その他、宗派公式ウェブサイトに「実践事例」を掲載したり、仏事奨励リーフレットの作成を行ったりしました。また、実践運動の人権啓発推進活動において、感染症・ハンセン病と差別問題について学びを深めることができるよう、啓発資料「ハンセン病差別と向き合う」本願寺教団の歩みと課題」を全ヶ寺に配布をしました。宗派では以上のような実践運動の取り組みを展開しました。

子どもたちの笑顔のために募金
この取り組みでは、浄土真宗の有志で国際的に活動する団体や、カトマンズ本願寺と連携したネパールの子どもたちへの支援(主に学校の建設)などを行いました。今年度の募金額は二〇、九三三、三三五円(宗門全体)で、山陰教区は三四四、〇八八円です。(十二月一日現在)

山陰教区ではフードバンク活動に取り組みました。各種研修会や教務所への来訪の際に持参される方々も増えており、教区の取り組みとして定着してきた感があります。今後はさらなる充実を目指し、各市町村の社協や組、教化団体、寺院との連携を深めていきたいと考えています。その他、各組においてもそれぞれの目標をもとに熱心に取り組まれてきたことと思います。

子どもたちの居場所づくりを応援する
子ども食堂や学習支援事業に対する助成を行いました。
施設で暮らす子どもたちの笑顔を支える
本願寺派全国児童養護施設連絡協議会に加盟する十四施設と、母子生活支援施設本願寺ウイスタリアガーデンへの支援を行いました。
西本願寺みんなの笑顔食堂について
年に数回ですが聞法会館の多目的

さて、第四期の推進期間も今年度で最後ですが、皆さまのご協力で充実したのになったと思います。第五期に向けて、公聴会で出された意見や、教区での実践運動委員会の意見などを考慮して総合基本計画・重点プロジェクトの試案が作成されます。第五期も我々一人ひとりの念仏者の活動として取り組んで参りましょう。

フードバンク活動報告

ご協力いただいた団体・個人から
二七〇(延べ数)
届けていただいた食品・日用品の
数二、九八〇

お米約九五〇kg、
お菓子約一、〇〇〇食、
インスタント食品約一、〇五〇食、
缶詰約三三〇個、調味料三〇〇個、
飲料水約四七〇本
その他日用品(洗剤・タオル等)
これまで五十二回に亘り山陰両県
の社会福祉協議会や管轄する役所、
活動されている団体へお渡ししまし

た。今後も継続して実施いたします
ので、ご協力をお願いいたします。
○届けていただきたい食品

お米・レトルト食品・インスタント
食品・缶詰・瓶詰・乾麺・のり・わ
かめ・昆布・粉末食品(お茶漬けの素・
味噌汁・ふりかけ等)・調味料(醤油・
砂糖・麵つゆ・塩・味噌・酢・食用
油等)・菓子など

○注意いただきたい事項
・賞味期限が明記されており、一ヶ
月以上あるもの(社協によっては
三ヶ月以上)
・未開封で中身が出ていないもの
・常温保存が可能なもの

第四十四回全国寺族青年軟式野球大会 中・四国ブロック寺族青年軟式野球大会

野球部主将 益田組 進徳寺 佐々木 白文

九月二十八日・二十九日に「第
四十四回全国寺族青年軟式野球大
会」が宇治市の総合運動公園太陽が
丘で開催され、山陰教区寺族青年野
球部も参戦いたしました。初戦、東
海教区と対戦。打線が期待できるメ
ンバーで臨みましたが、最後まで相
手投手を攻略できず全国大会の規定
により時間切れ、2-1と初戦敗退

でした。
悔しさをにじませながら臨んだ
「中・四国ブロック寺族青年軟式野球
大会」。十月十三日に松江市宮野球場
にて開催されました。今大会は、山
陰教区が担当教区ということもあり、
前日(十二日)には、市内のホテル
でレセプションが開催され、大会関
係者や選手たちと親睦を深めました。



7月5日、同朋社会部会の正副部長が大田市社会福祉協議会にお
渡ししました。

大会当日は、天候にも恵まれ熱い
戦いが繰り広げられました。今回は、
山口教区、備後教区、山陰教区、三
チームの総当たり戦です。
初戦は、山口教区と対戦しました。
序盤から自慢の打線が大爆発。投手
も長州打線をねじ伏せ、終わってみ
れば10-0の大勝。次の備後教区と
の対戦でも、初戦の勢いそのまま打
線がつながり、順調に得点を重ね
十三得点。投手陣も好投、守備のエ
ラーこそありましたが鉄壁の守りで
相手打線をゼロに抑え、二試合連続
完封勝利を果たし見事、優勝を掴み
取ることができました。

二つの大会を終え、他教区との親
睦も深まり、チーム自体の課題や方
向性もみえてきました。次の大会に
向けて一人ひとりが課題をもち、練
習を重
ね、一
つでも
上を目
指し精
神一到
してま
いりた
いと思
います。



山陰教区仏教壮年会連盟 総会・研修会

山陰教区仏教壮年会連盟 前理事長

眞野明政

七月一日(土)、山陰教堂教化センター研修室において約八十名の参加で令和五年度の総会・研修会が開催されました。総会では、元理事長の村上勉氏が議長を務められ、五つの議案が上程されました。会員の方々の多大なご理解とご協力のなか令和四年度の事業報告、決算報告並びに令和五年度の事業計画、予算案が全

て承認されました。また、今年は、役員改選の年にあたり、理事長に出雲組成福寺仏教壮年会・武田英教氏が選任され、副理事長に鳥取因幡組浄徳寺仏教壮年会・永原初雄氏と大田東組仏教壮年会・齋藤寛氏が選任されました。

続く研修会では、本願寺派布教使、武田正知師(上方講談協会・旭堂南

雲氏)が「物語で伝える仏さまと一緒に「の人生」というテーマで講演されました。内容は、形而上学的なもの、特に信心とは縁遠い西洋科学者である医者の方が、身内の死に直面し、理路整然と理屈で理解、納得できないことに悶々と悩み、苦しんでいるなか、今まで軽視していた仏さまの教えにご縁をいただき回心したというお話でした。

また、ご講師のご尊父さまが先日亡くなられ、理屈ではない寂しさを述べ懐かれました。 たった三時間の短い総会・研修会でしたが中身の濃い集まりでした。

若寺族婦人研修会

七月八日(土)、浜田組光西寺において若寺族婦人研修会を開催いたしました。浜田組の寺族婦人会の皆さまを中心に企画・準備をいただき、教区内から二十四名が参加されました。

ご講師に、龍谷大学文学部教授の鍋島直樹先生をお迎えし、「親鸞聖人にまなぶ基本姿勢」仏さまと共に心を寄せて」と題し、ご講義いただきました。「寄り添う姿勢」とは何かについて、わかりやすくお話し

いただきました。

また、鍋島先生と一緒に歌を歌ったり、参加者同士が、普段の疑問や悩みについて語り合う時間があり、とてもなごやかで充実した研修会でした。

特に、普段の生活の中での悩みや疑問を話せる場が少ないとの声も多く、今後も本音で話し、交流がもてる研修会や、実践できる研修会となるよう企画してまいりますので、どうぞお気軽にご参加ください。



近 御本山用達
株式会社 川勝法衣店

0120-075-055
〒600-8344 京都市下京区花屋町通油小路東入
TEL.075-371-0367(代)
FAX.075-371-5088

印刷と出版でできること。
編集・デザイン・印刷・出版のプロとして
様々なソリューションを提供する。
人と向き合い、地域と向き合い一緒にあってつくること。
それが私たちにできる、地域貢献のカチチだと考えています。

お客様の良き相談相手になることを目指します
株式会社谷口印刷
HARVEST ハーベスト出版



同朋社会研修会

浜田組

金藏寺

朝あさ

枝えだ

實じつ

成じょう

七月五日(水)、同朋社会研修会を大田市の島根県立男女共同参画センター「あすてらす」で開催いたしました。

ご講師は、大田東組正藏坊・菅原龍憲師で、「『信教の自由』を問う〜旧統一教会』問題をめぐって〜」というテーマでの講演でした。

菅原さんは、靖国神社祀取り消し訴訟に三十年以上も取り組み、特に日本国憲法が保障する「内心の自由」の基本的人権を国家権力が平然と踏みにかけてきた日本近現代史の問題を炙り出し、本願念仏者として

国家権力と毅然と対峙してこられた方です。

昨年七月八日、忽然と起きた安倍元首相銃撃殺害事件で具現化した自民党と世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の密接な繋がりも、戦前国家神道と結びついて国民を統治した祭政一致の構造となら変わりがなく、まさしく旧統一教会問題こそ浄土真宗の布教の主題として積極的に取り組んでいく必要があるということをお話くださいました。

講演を聞きながら、ふと約四十年前の学生時代、当時「原理研究会」

仏教婦人会連盟初心者のための浄土真宗

期 日 二〇二三(令和五)年

七月十五日(土)

会 場 本願寺山陰教堂

研修センター

参加者 十八名

新型コロナウイルス感染症の影響で、四年ぶりに(昨年度は実践運動研修会と併催)「初心者のための浄土

真宗(若婦人聞法のつどい)を開催いたしました。ご講師には、島根県出身で「バルーン住職」として各種イベントや幼稚園、福祉施設で活躍の加藤大地先生(四州教区今治組常高寺)をお迎えしました。

このたびの研修会には、子どもも多く参加され、先生から浄土真宗のみ教えについてわかりやすくお話し

という名のセミナーに友人が興味本位で参加し、「君は親鸞に浄土真宗の教えに騙されている」とまで言い出し、その豹変ぶりに恐怖を感じて実家に連絡を取り、無理やり脱会させたことを思い出しました。その後、彼は大学を卒業、龍谷大学大学院へ進学、宗学院で更に研鑽を積み、今や本願寺派僧侶として寺院活動に布教活動にと活躍しています。実際、彼に当時どのような内容のセミナーであったかは聞いてはいませんが、彼のその後の歩みの中で、本願真実に出遇い支えられて、彼自身の心の自由を取り戻し、心豊かに生きてきたことは間違いないように思います。

今回のテーマは、あまりに大きな問題や課題を孕んでおり、それをしっかり学ぶには時間が足りないように

ただき、また、独学で学ばれたバルーンを通してお寺に来てもらうきっかけとなればとお話いただきました。

続いてのバルーンショーでは、音楽に合わせてその場でさまざまな作品を作られ、また参加者と一緒にバルーンアートを作るワークショップでは、子どもたちも一緒に楽しく作品を作りました。

参加者からは、楽しくバルーンアートを作りながらも、浄土真宗のみ教えにふれることができたとの声も多

感じましたが、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献」する宗門の理念・目的達成への念(おも)いを深めることができた意義深い研修会だったように思います。

く、是非お寺でもやってもらいたいの声もありません。



公聴会

期 日 二〇二三 (令和五) 年
七月十八日 (火)

会 場 本願寺山陰教堂 教化セン
ター研修室 (宗務所とオン
ラインで接続)

参加者 三十八名 (現地参加 二十四
名、オンライン参加 十四名)

今年度の公聴会は、「新たにめざす
持続可能な宗務組織を構築するため
の具体策」の進捗状況や今後の方向
性・次期「御同朋の社会をめざす運
動」(実践運動) 総合基本計画・重点
プロジェクトの策定にあたっての現
状報告・宗門財政構想委員会から提
出された「賦課基準の見直しについ
て(第三次答申)」の内容について説
明が行われました。
それぞれの説明に対し、ご参加さ
れた方々から、積極的にご質問・ご
提言をいただきました。



第四連区青年布教使研修会に参加して

邑智東組 西福寺 小笠原 宣隆
おがさわら のぶ たか

去る九月二十八日・二十九日、本
願寺備後教堂を会場に第四連区青年
布教使研修会が開催され、山陰教区
は十四名の参加がありました。

初日は法話実演でした。各教区青
年団員が一名ずつ十五分間お取次ぎ
され、山陰教区は大原浩市師(大田
中組 浄土寺)と、まとめの法話に副
団長の窪田英俊 師(大田西組 願林
寺)がご出講くださいました。お参



りの御同行と共に聴聞させていた
だき、法味あふれる時間を過ごし
ました。

実演後、各教区団長・副団長を中
心に講評があり、教学や言葉の選択
について、また装束や話術について
など、さまざまな視点からご意見が
あり、大変勉強になりました。

そして、夜は数年ぶりに全体での
懇親会が催され、他教区青年団員と
親睦を深めることができました。コ
ロナ禍での布教・伝道の創意工夫、
またアフターコロナ下での変化や現
状認識など意見交換をし、有意義な
時間でした。

二日目は、先ず麻田秀潤 先生(布
教団連合同朋研修講師)のご講義
がありました。日本のジェンダー
ギャップ指数の後退やLGBTQな
ど現代の問題も含め、より学びを深
め、課題としていくべきことをお教
えいただきました。

続いて、三浦真証 先生(龍谷大学
非常勤講師)から「何を聞いて生き
るのかー親鸞聖人の信心の世界ー」
と題して、ご講義いただきました。
私たちは「なしたこと」ではなく、

「なされたこと」によって救われる。
という先生の言葉から、親鸞聖人は
阿弥陀さまが私たちを救わんとして
「なされたこと」を聞いて生きてゆ
かれたとのご教示をいただき、私た
ちが聞き、ご讃嘆させていただく内
容は何であるかを明らかにしてい
た
できました。

最後に、来年(二〇二四年)度は
山陰教区が研修会担当(二〇二四年
十月一日〜二日 開催予定)です。教
区布教団の皆さまにご指導をいた
だきながら、意義深い研修会となるよ
うできる限りの準備を進めていくこ
とを、教区青年団員の皆さまとも共
有させていただき、絆を深めること
もできました。来年度の研修会に向
けて、ご支援・ご協力をいただきま
すよう、謹んでよろしくお願いいた
します。

平和の鐘



九月十八日、第四十三回
千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
が、国立千鳥ヶ淵戦没者墓
苑において修行され、恒久
平和の願いが込められた「平
和の鐘」が撞かれました。
山陰教堂や教区内寺院(八
十九ヶ寺)でも同時に梵
鐘や喚鐘が撞かれ、平和へ
の決意を新たにしました。

門徒推進員連絡協議会 総会・研修会

出雲組 通傳寺 日野邦雄

七月二十三日(日)、山陰教堂教化センター研修室にて、総会が開催されました。新しく斎藤会長、今岡副会長が選任され、事務局、監事は留任されました。

令和四年度会計決算報告、事業報告があり承認され、続いて令和五年度の事業、予算関係の報告がありま



した。報告の中で新型コロナウイルスのため事業が進めにくい一面もあつたとのことでした。例年の参加者は七〇名余だそうですが、今年度は四〇名余でした。

研修室入口の机の上には、フードバンクに心温まるご寄附の食品がたくさん置いてあり、できるだけ協力していきたいと思いました。

続いて研修会に入りました。テーマは「お念仏申す生活」。講師は、市野覚生師です。三〇代の若いご住職で、大きな声ではっきりとした口調でお話をいただきました。「仏法は若い時に聞け」「み教えに問い、聞き、語り、」ともに育ちあいながら、解決し克服する念仏」「また花のような教えとお浄土」とわかりやすくお話ししていただきました。

私も後期高齢者になり、普段の生活で「朝には紅顔ありて、夕べには白骨となる身なり」と心にとめたいと思います。今、出雲組では第十三期門徒推進員養成連続研修が開催されています。多くの仲間が増えることを念じます。

合掌

仏教婦人会連盟 実践運動研修会

期日 二〇二三(令和五)年

九月五日(火)

会場 松江勤労者総合福祉センター

松江テルサ

参加者 六十七名

本年度の研修会は、仏教婦人会綱領の学びを深めるため、ご講師に荒本由未師(大田西組 西臨寺)をお迎えし、「南無阿弥陀仏」の輪をひろげます。南無阿弥陀仏は阿弥陀さまのよび声」と題して講義いただきました。

仏教婦人会綱領にも掲げられている「南無阿弥陀仏」の輪をひろげることがいかに大切なことであり、私自身だけでなく、周りの人にも伝えることが重要であると、先生の体験を通してお話いただきました。

参加者からも「当たり前ではなない日々の大切さに気づくことができました」「先生の力強い言葉を胸に改めて仏婦綱領を声に出して唱和したい」など多くの声があり、また、仏

教婦人会綱領そのものが実践運動であるとの先生の言葉に、改めて学びを深めることができた有意義な研修会となりました。



青年布教使研修会

益田組 善正寺 齋藤友法



「講釈師 見てきたようなウソをつき」。そんな雰囲気味わった一日でした。八月二十九日(火)、今年度の青年布教使研修会が山陰教堂教化センター研修室で開催されました。

ご講師は上方講談(講釈)師・旭堂南左衛門先生。「講談の世界」をテーマとして、普段とは違う伝統芸能を通しての話術や関連性及び鍛錬などを学

ばせていただいた研修会でした。

最初に先生の実演。先生の声に言葉に熱に、教化センター研修室がいつもと違う空気になっているのを肌で感じました。講義では、仏教と講談との繋がり、歴史や成り立ちをわかりやすく紐解いて教えていただき、江戸・明治・大正・昭和・平成・令和と、どの時代のお話も想像が膨らむような内容でありました。特に心に残っているお話は、後世にも旭堂一門の話(ネタ)が残るように「自分の弟子を最低一人は持つ、伝え育てる」という言葉です。

山陰教区の青年布教使も年々と減少したり、活動の幅が少なくなったりしている中で、「育む場、布教環境を整える」ことを大事にし、浄土真宗のみ教えを今後も残していけるようにと、改めて学んだ実りある研修会でした。



僧侶研修会

九月十一日(月)、僧侶研修会を開催しました。

森田眞円 勸学(奈良教区 葛城中組 教善寺 住職)をお招きし、「善導大師と観無量寿経」と題し講義をいただきました。

また、勤式講習会では、小原静伍 教区勤式指導員から、「組・一般寺院での『親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要』につ

いて講義をいただきました。

今年度は、昨年度に引き続き、よりの多くの僧侶の方々に参加いただくための伝道教化施策の一環として、現地会場(山陰教堂)のほか、鳥取伯耆組妙寂寺・大田西組西楽寺の二ヶ寺の協力のもと、サテライト会場を東西二会場設けて開催しました。

オンライン会議システム「Zoom」を使い二会場に映像と音声配信。会所をお引き受けいただいたご寺院のおかげで、円滑に開催することができました。

参加人数は、六十二名(山陰教堂四十三名、妙寂寺六名、西楽寺十三名)。参加された方からは、「講義資料の内容が細かく書いてあり、わかりやすかった。」「今まで聞くことになかった観点の講義だったので、大変勉強になった。」などの感想が寄せられました。



「連研のための研究会」に参加して

佐波組 浄土寺 西原真公

十月六日(金)、山陰教堂教化センター研修室において、「連研のための研究会」が開催されました。この三年間は中止や規模を縮小しての開催でしたが、今年はコロナ禍前と同様の丸一日の開催でした。教区・組の現状や問題点、門徒推進員による視点など、教区内の連研も再開し始めてきたと実感しています。ただ、一旦休止したために、なかなか再開のメドが立たない組もあります。

今年「葬儀や法事は何のためにするのですか。しなければいけないの



ですか」をテーマに、備後教区の坂原英見師を講師にお招きして学びを深めました。コロナ禍により通夜・葬儀の形態も様変わりし、事前焼香や流れ焼香など、一般の参列ができない状況から、どうしたらみ教えを伝えていくことができるか、どのようにしたら良いのか参加者全員、悩み・意見を交わした研修会であったと思います。

その中で講師の「寺院浴」という言葉がとても印象的でした。お風呂に入り「イイ湯だな」と思わず言ってしまうように、お寺に参って「ここがええのお」と言えるようなお寺でありたい。そこにお寺のあるべき姿が見えてくるような気がします。僧侶もついで、顔がこわばってしまったり、お風呂に入り顔が緩むように、私たちも柔らかい顔に変えていかなくてははいけません。僧侶と門信徒一緒にお念仏させていただく顔作りに今こそ励むべきではないでしょうか。

昨今、墓じまい、仏壇じまい、終活の言葉を多く聞きます。実際、何件もその場面に立ち合ってきた。今の社会状況を見るとさまざまなき生き方を自由に選べる時代とな

り、価値観の多様化が進んでいます。そういう現状の中で「終活」を「宗活」に換えていくことはできないだろうか。ともにみ教えを喜べる友たちといっしょにお聴聞する環境、その場所こそお寺です。お寺でお聴聞する仲間が仏婦であり仏壯、門推でもあります。ご法義を共に味わう仲間を「寺友たち」と呼ばれるそうです。今こそ寺友たちと一緒に寺院浴

本願寺山陰教堂報恩講

十月二十日(金)、本願寺山陰教堂の報恩講をお勤めいたしました。

午前の法要は「無量寿経作法」、午後の法要は「正信念仏偈作法(第二種)」。結衆として飯南組と邑智西組のご法中に、奏楽員として雅龍会の皆さまにご出勤いただきました。

今年度からコロナ禍でとりやめていたお斎を再開し、従来の形で報恩講を厳修いたしました。

またオンライン担当者の皆さまにご協力いただき、法要並びにご法話の様子をオンラインで配信し、ご自宅からでも見られるように努めました。

ご講師は、本願寺派布教使 竹内俊之師(兵庫教区 揖龍東組 浄蓮寺ご住職)。参拝者の皆さまと一緒に聴聞させていただきました。

に浸かり、「いい湯だなあ」と言い合える繋がりを広げていきたいと思っています。み教えに触れる場が通夜・葬儀であり、連研でもあるのです。実はこの度の研究会は、たまたま席がとまりだった法友(寺友たち)との最期のお聴聞(研修)となりました。お聴聞を喜びとする彼と一緒にいたことが私にとって何よりの法縁となりました。 合掌

皆さま、ようこそお参りくださいました。



寺族婦人研修会

期 日 二〇二三 (令和五) 年
十月二日 (月) ～ 四日 (水)

場 所 本願寺仙台別院
相馬組 (福島県) 寺院他

参加者 十八名

山陰教区寺族婦人会連盟では、平成二十六年に「仙台別院参拝と被災地復興応援」として本願寺仙台別院や南三陸町・気仙沼を訪れ、それ以来の現地での研修となりました。東日本大震災から十二年が経過した現

門徒総代会研修会

期 日 二〇二三 (令和五) 年
十月十六日 (月)

会 場 本願寺山陰教室
教化センター研修室

参加者 六十二名 (現地参加 五十九名、オンライン参加 三名)

講師は、山名立洋師 (鳥取因幡組養源寺住職、鳥取因幡組組長、浄土真宗本願寺派 寺院サポート講座「お寺のビジョン作成研修」講師)。

『求められるお寺とは』 (寺院サポート講座から見えて来たもの)

在の様子や、状況の変化について学習し、また、被災された方々のお話を伺いました。

初日は、仙台別院でボランティアセンターの活動についてお話を伺いました。ご家族を亡くされた方のお話の中で、被災し家族を亡くして暫くは前向きに生きることができなかったが、今、やっと新たな自分に向き合うことができるようになったとの言葉が印象的でした。

二日目は、福島県南相馬市や浪江町の寺院にて現在の様子についてお話を伺いました。

福島第一原発からほど近い場所にと題し、講義をいただきました。

パワーポイントを使い、講師のご自坊での取り組みについて具体的な事例を交えながら、寺院運営のヒントをいただきました。

今年度は、Zoomによるオンライン配信も行い、三名のオンライン参加をいただきました。

参加された総代の皆さまからは、「これからのお寺を考えていくうえで大変参考になった」「話がとても密でわかりやすかった」「今日のお話を多くの方に聞いていただきたい」などの感想が寄せられました。

ある寺院では、ご門徒も帰って来られず、本堂も当時のままであったり、再建されていない寺院もありました。

また、宿泊先のホテルの従業員の方、バスガイドの方一人ひとりが被災者であり、多くの悲しみや、助けてもらった感謝の気持ちを涙ながらに語られました。このたび被災地を訪れたことで、整備された町がある一方で、手つかずのままの寺院があることや、消えることがない悲しみや感謝の気持ちを知ることができ、非常に学びの大きい研修会となりました。



名取市関上の慰霊碑。慰霊碑と同じ高さ(8.4m)の津波が押し寄せた

オフィスの身近な応援団!

For the best service company.



本社 〒690-0826 松江市学園南2-10-14タイムプラザビル1F
TEL 0852-27-0329 FAX 0852-27-0376
支店 / 出雲・雲南・大田・浜田・益田・山口

<https://www.mic-ltd.co.jp>

第七回青年教化指導員研修会に参加して

鹿足組誓立寺 朋 澤 融 智

八月三十一日から九月一日まで、本願寺において開催されました第七回青年教化指導員研修会に参加いたしました。

各教区の青年教化指導員や仏教青年連盟に関わる方、教務所職員の方々約五十名の参加で開催された本研修会。初日は講師をしていただける予定だった先生が所用のため急遽欠席とのことで、指導講師の先生方が中心となって研修を進められていた姿が印象的でした。

今回の研修会ではOST(オープン・スペース・テクノロジー)という形で研修が行われました。参加者がテーマを出し、それぞれが話した内容のテーマのところに集い、途中でグループから抜けてもよし、途中で別のテーマの場所に入ってもいいという形は、私自身初めて行う研修形態で驚きました。指導講師の方からも、テーマをいただきましたが、参加者からのテーマの提起を求められ、流れの中で、「オンラインの活用について」という形でテーマを出させていただきました。他には「あな

たの夢は？」や「仏青の目指す姿とは？」などといったさまざまなテーマがあがっていました。

コロナ禍でオンラインの活用が盛んになってきた中で、どのようなことが起こり、どのようなことをそれぞれ感じているのか、メリット・デメリットを、それぞれの経験・立場から聞いたのは、すごく新鮮で勉強になりました。

最終日は教務所職員とそれ以外に分かれ、数グループで、それぞれの経験や、自身の活動をもとにどう関わっていきたいか、を話し合いました。青年教化指導員といっても、それぞれの経験や、さまざまなアプローチがあり、刺激を受けました。若い人に浄土真宗のみ教えを伝えていくことに必要なのは、さまざまな視点と、同じ思いをもつ仲間だと、確認することができました。全国に仲間ができたのは貴重な財産です。



令和6年能登半島地震 浄土真宗本願寺派 能登半島地震支援センター開設について

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」で被災された皆さまに、お見舞い申し上げます。

このたびの地震において被災された方々に対し緊急の対応を行うため、宗派支援センターが設置されましたのでご案内いたします。

▶名称

令和6年能登半島地震 浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター

▶設置場所

本願寺金沢別院
〒920-0851 石川県金沢市笠市町2番47号
電話 090-2565-5325 / 090-2163-5325 (携帯電話2回線)
FAX 076-221-6417

▶設置期間

2024(令和6)年1月8日(月)～当分の間

▶活動内容

1. ボランティア活動に関する情報の収集と提供
2. 宿泊場所の提供(ご自身でホテル等を手配のうえ活動していただくことも可能です)
3. 支援物資の要望と受け入れの連絡調整
4. ボランティア活動に参加する方への支援活動
5. 石川教区現地緊急災害対策本部との連絡調整
6. 継続的取り組み及び組織的取り組みに関する連絡調整と資料・情報収集
7. その他必要と思われる事項

※最新の情報については、支援センターの公式サイトをご確認ください。(https://www.incl.ne.jp/honganji/)

「令和6年能登半島地震 災害義援金」について

2024(令和6)年1月1日、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、各教区から宗派に被害の報告が寄せられています。

継続した被災地の復興支援を目的として、下記の通り宗派災害義援金の募集が開始されましたので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

1. 募金の名称

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金
「令和6年能登半島地震 災害義援金」

2. 受付口座番号

郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金
銀行振込
銀行 ゆうちょ銀行
店名 一〇九(イチゼロキュウ)店
番号 当座 0069957
名義 たすけあい募金

※通信欄に「能登地震」とご記入ください。住所、連絡先、領収書名のご記入をお願いします。

※インターネットバンキングにて振込の方には、入金確認後、住所、連絡先、領収書名義等について確認のご連絡をいたします。お預かりした募金は災害義援金として、被災地へ送金されます。

3. 受付期間

2024(令和6)年1月5日(金)から当分の間

4. 問い合わせ先

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下本願寺門前町
浄土真宗本願寺派伝道本部 社会部<災害対策担当>
TEL 075-371-5181 FAX 075-365-6199
saigai-taisaku@hongwanji.or.jp



飯南組実践運動の取り組み

飯南組 重点プロジェクトリーダー 高橋浩文

最初に、飯南組における重点プロジェクトの目標と活動について、主要事業の経緯を紹介します。

【貧困問題や子どもたちを取り巻く環境を理解しながら、自分たちができる実践活動を推進する】

令和元年、飯南高校JRC部が、不要になった本やCDを回収し、その買取金で、紛争が続く国へ赤ちゃん用おむつを送るなどの活動を支援していることを知りました。

飯南組として、この活動に賛同し、組実践運動委員さんに協力依頼をして九百点を回収、翌年にはJRC部と町内五つの公民館に回収場所をお願いし、館報等で広く周知してもらい、六千点余り回収することができました。その後はJRC部の休部もあり、飯南組と公民館共同で活動を継続して三年になります。

【子どもたちの社会的、精神的な自立を防ぐために、お寺が地域のつながりのなかで、子どもたちとのご縁を結ぶ】

常任委員会で、子どもたちがお寺に集まりやすく、手助けしやすいも

のを検討し、「夏休みラジオ体操と朝のおつとめ」を提案しました。事前に、ラジオ体操の現況調査を行い、組委員会での班別協議、寺院間での調整、打合せを経て、令和三年に試行、四年から町内四地区五ヶ寺で実施しています。コロナ禍で、児童の感染対策や参拝者の制約をするなかで、全体で百名前後の参加がありました。

また、重点プロジェクト以外の実践運動では、令和四年三月に開講した第十六期連続研修は、令和五年五月、受講者二十名全員の方に修了証が授与されました。

十二月には、十回目の子ども報恩講を四年ぶりに開催しました。

これらの活動は、会所を持ち回りとし、住職が講師の役割を分担して、全ての教化団体にもスタッフとして協力をいただいています。

過疎化、少子高齢化が進む当地において、組を挙げての地道な取り組みと積み重ねは責務であり、次世代にお念仏がつながる出あいとなることを願っています。

とを願っています。

つぶやき職員

先日、数年ぶりにインフルエンザに罹患しました。新型コロナウイルスが大流行してからは、こまめな消毒のおかげもあってか、人の流れが制限されてもいきましたので、一度も風邪を引くことがありませんでした。久しぶりででしたし、家族も罹患したので余計にしんどい思いをしました。

ちょうどテレビで、人生で涙する時間は約十九日間、家族でご飯を食べる時間は約三年間、風邪を引いている時間は約五年間というCMを目にしました。長いか短いかはそれぞれでありましようが、自分や家族が元気な時は、それが当たり前であるかのように毎日を過ごし、風邪を引いたときや怪我をしたときはとても不自由に感じます。

しかし、同時に自分や家族が元気でどこかへ出かけ、好きな物を食べ、笑っていられる時間が当たり前ではなかったことに気づき、その時間をとても有難く感じます。元気であることは決して当たり前ではない、有難い時間であることをこれから心にとめ、日々を過ごしてまいります。

(M・S)

伝統ある京佛具を後世に伝えたい

浄土真宗本願寺派仏具専門店
寺院用 在家用 仏壇 仏具 記念品

株式会社 古田た佛具製作所

〒600-8328 京都市下京区正面通西洞院東入ル蛭子水町609
TEL(075)343-2341 FAX(075)343-0836
フリーダイヤル 0120-178-413
フリーアクセス 0120-343-036

丸谷焼の産地、石川縣能登市の文元「虚空藏堂」で一つ一つにこだわり製作された井筒オリジナル小皿です。




F7053 丸谷焼 下藤紋入小皿
サイズ：直径 13.5cm 紙箱入 3,300円 (税込)

〒600-8468 京都市下京区堀川通新花屋町角 (西本願寺前)
Tel 075-351-1234 Fax 075-341-7905
☎ 0120-075-720

井筒法衣店 **オンラインショップを開設しました**



本願寺派の宗教教誨は明治六
年に始まるとされ、今日までに
一五〇年の間、多くの先人たち
の尽力により活動が受け継がれ
てきました。

九月十二日(火)に開催された
「本派教誨百五十周年記念大会」
では、「本派教誨の伝統、今何を
実践すべきか」との総会テーマ
のもと、多様化する社会状況に
応じた今後の活動の在り方に
ついて学ぶ機会を得ました。

ご門主はお言葉の中で、昨年四
月の改正少年法の施行、令和七
年六月までには一五〇年ぶりに
刑罰制度が見直され、「懲罰」か
ら「更生」へと犯罪抑止が重視
される転換期にあることをふま
えられ、信教の自由のもと浄土
真宗の教義に基づき、被収容者
の更生を促し、社会復帰をはか
るといふ教誨師、篤志面接委員
の重要性をお示しくださいまし
た。

この度、本願寺派総合研究所所
長の満井秀城 師の基調講演「人
間の罪業性を考える」と、龍谷

大学名誉教授である加藤博史 師
の記念講演「教誨の歩み、課題、
挑戦、光源」を聴講いたしました。
満井 師は「自らの犯した罪に苦
しむ人々に慈悲を伝えることの
大切さ」を、加藤 師は「被収容
者と同じ目線で向き合い心を通

(帳) (楽) (憂)

本派教誨150周年記念大会

寺玄宗 雲組 出
海観 森 藤

い合わせることを力説されま
した。限られた時間でしたが、
自分自身を見直す貴重な時間を
いただきました。

山陰教区矯正教化連盟は、教務
所長を支部長とし、教務所職員
が事務局を担当。鳥取、松江の

両刑務所・島根あさひ社会復帰
促進センターの三ヶ所で八名の
教誨師が活動しています。

各施設ごとに更生プログラム
は若干異なりますが、私の所属
する松江刑務所では、基本的に
は月一回一人あたり四〇分を目
安に、個人面談を行っています。

被収容者が出所するまでの間そ
れが続きます。施設の行事等に
参加することもあります。また
各方面の研修会や勉強会を通し
て自己研鑽にそれぞれが努めて
います。

今後皆さまのご理解とご協
力を得ながら活動を進めて参り
たいと思っております。引き続
きご支援を賜りますようお願い
申しあげます。



編集後記

新型コロナウイルス感染症も五類
になり、地域の事業や行事も様子を
見ながらではありますが、三年前に
戻りつつあります。また、教区の行
事やお寺の法座や法要も完全ではあ
りませんが、新型コロナウイルス感
染症拡大の前に戻りつつあるよう
に思います。

先日、教区の寺族婦人会研修旅行
で、東北教区へ参らせていただきま
した。この度は、仙台別院と福島県
相馬地方を訪ねましたが、お寺の復
興はまだまだ先なのだなと感じまし
た。あの大震災から十二年。福島原
発の処理水の問題、人口流出の問題
等々、沢山の問題が残っていること
に気づかされました。また、仙台別
院でお話を聞かせていただいた、ご
講師は、ご両親と可愛い盛りの我が
子を津波で亡くされ、その時の話を
私達に聞かせてくださいました。「よ
うやく涙なしで話せるようになりま
した。十二年かかりました。」と。
外から見ただけでは判らないこと、
そこに行かないと判らない空気感
を、身をもって感じられたことが、
私にとって大きな収穫だったと思
います。

何気ない日常の有り難さを感じ、
自分のできることは何かと問うてい
きたいと思えます。(O・K)